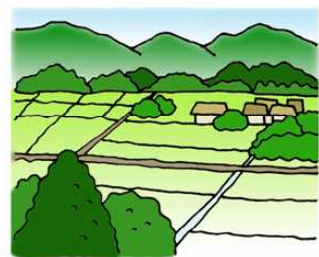


校長室の窓からNo. 7 (H28. 9. 16)

シリーズ 「ふるさと＝夢を育む十勝の大地①」 ～人は誰でも輝きを秘めた原石～



「ふるさと＝夢を育む十勝の大地」。それはどういうことなのかは、後ほど説明することにし、しばらく、ノンフィクションである拙稿にお付き合いください。

私の中学校の母校は、北海道十勝北部のとある農村部の中学校で、酪農業や畑作の地域にありました。また、ほとんどの中学生は、大人と肩を並べるくらいよく働く立派な労働力として期待されていました。今では考えられないことですが、私が子どもの頃に住んでいた地域では、子どもに向かって、「勉強ばかりして怠けないでちゃんと働け。」と、多くの親が言っていました。確かに現在のようにあまり機械化されてない時代で、猫の手でも借りたいほど忙しい毎日でしたから、今考えてみますと、そう言いたくなる気持ちもわからないわけではありません。しかし、私は、「勉強をすることは怠けることではない。」と考えていましたので、「なんで、そんなことを言うのかな。変なこと言うなあ。」と思いました。私の家では、自分が小学校2年生か3年生頃からだったと思いますが、朝は5時頃から牛舎に行って、乾燥した牧草や配合飼料などの牛の餌配り、牛舎の清掃、搾乳作業（昭和45年頃を境に機械化されてミルカーで搾乳しましたが、それ以前は手搾り作業）がありました。そして、6時頃に朝食でした。ご飯と味噌汁と野菜だけの質素な朝食でしたが、一仕事をしてからの朝食でしたからたいへん美味しかったという記憶があります。また、後に父親から教えられたことですが、当時は、「勉強ができるようになると、他の仕事にも興味をもち、子どもが農家を継がなくなるかもしれない。」「後継者がいなくなるのは、子どもに勉強させるからだ。」という誤った考えや心配があったようです。その説明で、自分も何とか納得できました。しかしながら、当時もそうでしたが、農業で生計を立てていくためにはかなりの知恵が必要です。現在はさらに、農業技術も進歩していますし食糧に関する国際競争も激しくなっています。そのため、一般教養は勿論のこと、農業経営に必要な専門性を身につけて幅広く勉強することはごく当たり前の時代になりました。

しかし、昭和48年頃のオイルショック、その頃はおまけに霜による小豆をはじめ豆類の全滅という冷害による凶作が続きました。そのため、離農する農家も少なくありませんでした。そして、昭和45年を境に、「勉強ばかりして怠けないでちゃんと働け。」から、「仕事もして勉強もきちんとしなさい。」が流行り始めました。私の親も後者の方でした。さらに、凶作が続いたせいなのか、両親から、「農家は継げないぞ。」「勉強して他の仕事を考えなさい。」とまで言われました。私は、農業をすることばかり考えていたので、中学生ながらに途方に暮れました。通常は、中学校3年生は、人生の基礎を学び終え、さらなるステージに向かってスタートラインに立つという人生の分岐点や原点の時期になるはずでした。しかし、私の場合、磨きのかかかっていない石ころのように、どんな方向に輝いていけるのか全くわからない不安な状況にあったことを覚えています。また、中学校卒業後、就職する生徒が2割もの割合でいました。そのため、中学校3年生は、現在の中学生以上に重圧の大きい学年でした。ですから、中学校3年生ともなると、今以上にずっと大人でした。就職はすぐ社会に出ることですから、担任や副担任の先生方は、恐ろしく厳しかったことを覚えています。

しかしながら、私の親も考えたもので、私を後継者にしないための布石を少しずつ打っていたようです。両親から、小学校6年生の冬に、「借金して百科事典買うから、



ちゃんと勉強しなさい。」と言われました。しかし、何をどう勉強してよいのかわからず、成績も上げなければならないという無言の指示のように聞こえ、相当なストレスを感じていました。仕事の手伝いは相変わらず沢山あり、いつ勉強したらよいのかわからず、最初は5～6分程度、時間の隙間を見ては百科事典をパラパラとめくる程度で、空回りの連続でした。しかし、時の運なのでしょう。ミルカーという搾乳機が丁度その頃に導入され、搾乳のみ親から免除され、早朝と夕方のわずかな時間ですが、勉強のための時間をつくることができました。しかし、参考書や問題集ならまだしも、百科事典は分厚い内容で20数巻もあり、範囲が広すぎて学校の成績を上げるのにはあまり向いてないと思いました。そのため、「親がどこかの業者に騙されて買わされたのではないか。」と思いました。ただし、「借金して・・・。」というフレーズが常に気になっていて、学校の復習の他、必ずそれも読みました。最初は時間の無駄とは思いつつ、宇宙や地球に関することや、オリンピックなど、興味のある箇所を休憩代わりに好き勝手に読んでいました。やがて、偶然なのかわかりませんが、宇宙や地球で「数学」、オリンピックで「走り高跳びのウェスタンロール跳び（現在のロールオーバー跳び）」に興味をもち、「数学」「走り高跳び」に関するところだけ熱心に読んでいました。勿論、思春期でしたので、年頃の子どもの興味・関心をもつであろうと思われる内容も熱心に調べました。

いつものことでしたが、学校の勉強をしているようで、実はただ単に趣味的に百科事典を適当に眺めていただけのこともありました。ところが、仕事の手伝いか何かの用事でやってきた母親にたまたま見つかってしまいました。そのときは、こっぴどく叱られるのではないかと思いました。運良く母に気づかれなかったようで、「頑張っているんだね。少し休みながらやりなさい。」と言われました。心なしか、母親は嬉しそうに見えましたが、顔には一筋の涙が光っていました。よっぽど嬉しかったのでしょうか。それとも最悪のケースだったのでしょうか。その時の驚いていた自分を夢などで何度も思い出します。「親を騙して期待を裏切ってはいけない。」と子どもながらに心の底からそう強く思っていました。このような感情は、今までにない初めての感情でした。

その日からというもの、学校の成績向上とはあまり無関係に思える百科事典も好きになりました。そうすると、不思議なもので、興味・関心をもつところが富士山の裾野のように急に広がってきましたし、「数学」から「科学全般」へ、「走り高跳び」から「陸上競技」へと、興味や関心をもつ箇所も急に増大しました。それが、その後の人生に大きく影響しました。勉強は、前向きに捉えると、いろいろと関連性があり、無関係ではないことがかなり後で気づきました。それは、磨きのかかかっていなかった原石が、様々な要因によって価値ある磨きかけられ、閃光のごとく鮮明な輝きを放った瞬間でした。

私にとって大切な言葉。それは、「人は誰でも輝きを秘めた原石」であり、「人生にはいくつかの重要な分岐点や原点がある」ということです。私は、小学校と中学校の2校種で務めてきました。職場では、仕事柄その頃と同年代の小・中学生が通っています。私は、その頃に感じたことをしっかりと心に受けとめ、前向きに務めていきたいと考えます。

いかがでしたでしょうか。お子さんのこと、ご家族のこと、生活のことなど、いろいろ悩むことが多いと思いますが、「人は誰でも輝きを秘めた原石」であり、「人生にはいくつかの重要な分岐点や原点がある」ということです。十勝は、豊かな自然に囲まれていますし、農業が盛んなことも有名で、国内の他、他国からも認知されるようになりました。また、農業には、「育てる」「成長する」ということで、教育・子育てに共通することがあります。私は、かなりの内容で、十勝から「人は誰でも輝きを秘めた原石」「人生にはいくつかの重要な分岐点や原点がある」ということを学びました。ですから、ふるさと十勝に生まれたことに誇りをもっています。十勝以外のところでもそれぞれ類似したことはあると思います。そのことを承知し含めた上で、私にとっては、「ふるさと＝夢を育む十勝の大地」なのです。以上、長らく拙稿にお付き合いいただきありがとうございました。



(写真1枚目：学校近隣の畑 写真2枚目：傍の歩道から見た校舎)